

# テクノインストラクター

厚生労働省が「テクノインストラクター」と愛称を付けた職業訓練指導員。ポリテクセンターをはじめとする全国の職業能力開発施設で、離転職者などを対象に技術的な指導を行いながら、地域企業への就職を支援している。ポリテクセンター山梨で建築CADサービスクの指導員を務める齊藤博伸さんへの取材を通じて、テクノインストラクターの役割を探った。

甲府市にあるポリテクセンター山梨は、6カ月コースの▽機械CAD/NC▽金属加工▽建築CADサービスク▽電気設備技術の4科と、7カ月コースの産業技術科、電子制御技術科を設けている。いずれのコースも訓練修了後の就職率は8〜9割の高さを誇る。

このうち建築CADサービスクでは住宅の構造・製図を学びながら、CAD操作による作図

## 技能教育 レポート



齊藤さんはポリテクを巣立った人たちの活躍ぶりを聞くと「ことの仕事にやりがいを感じる」話す

方法を習得する。現在は男性4人、女性16人の訓練生が在籍する。ほとんどの人はこれまで建設業界で働いた経験がない。そのためパソコン画面でCADを扱うだけでなく、在来軸組構法による模擬建屋で床、壁、天井の下部や仕上げ施工も実際に行いながら、「実技を知ることによって仕上がりイメージした図面を描けるような技能を身に付けてもらう」（齊藤さん）ようにしているという。

山梨に赴任して5年目の齊藤さんはもう一人の指導員と共

## 技術指導通じて転職支援

に、技術指導から就職支援まで一貫して取り組む。訓練生は10代から60代までと幅広く、技能習得のスピードもさまざま。齊藤さんは一人一人の習得具合を見ながら、「他の人に後れを取っているようならフォローする」など、きめ細かな指導に当たる。

日々の訓練は午後4時に終了する。就職を目指す訓練生は資格取得にも意欲的。齊藤さんは訓練終了後も補講の形で受験対策を指導する。技術的な指導に加え6カ月間の中で訓練生が抱える悩み事など、相談を受けることも少なくない。

鹿兒島県出身の齊藤さんは、阪神大震災（1995年1月）の惨状をテレビで見たことが、インフラや建設業の大切さを考えるきっかけになった。加えて「人に伝える仕事がしたい」との思いもかなえるため、指導員

を志して職業能力開発総合大学校に入り資格を習得した。

指導員としてポリテクセンター静岡を皮切りに函館、山梨との場所を移し、現在15年目。指導員の仕事を齊藤さんは、「人生の岐路に立つ人たちに訓練を通じて何かを伝え、次のステップを踏んでいくのを見ることができると話す。齊藤さんの元を巣立っていった訓練生は数多いが、「風のつわさに建設業で頑張っていることが聞こえてくる時は何よりうれしい」という。

これからも続く指導員としての活動では、自らの技術・技能を高めることも重要だと考える。職業大で定期的に行われる指導員向けの研修に参加するほか、建築士や大工技能検定、インテリアコーディネーター、宅地建物取引士などさまざまな資格取得

得にも精力的だ。今年から職業大で行われる職業能力開発施設のカリキュラムや評価基準づくりの検討に委員として参加。他のポリテクで活躍する指導員とも、横のつながりを作っている。

技術・技能を伝える立場にあるが、産業界の技術進歩は思った以上に早い。こつた技術の進歩を指導員としてフォローできないもどかしさを感じることもある。「最新の技術を取り込みながら、それを指導の場で生かすには、どうしたらよいかを考えることもある」と話す。

建設業界ではまだ少ないが、他産業では指導員が技能伝承のためのテキスト作りに参画しているケースもある。齊藤さんはそうした活動にもぜひ参加して、業界と一緒に取り組んでみたいという思いも抱いている。

## 全国の職業能力開発施設で活躍

